

平成
九年

三翠化学会総会報告

三翠化学会

(題字は稲川先生)

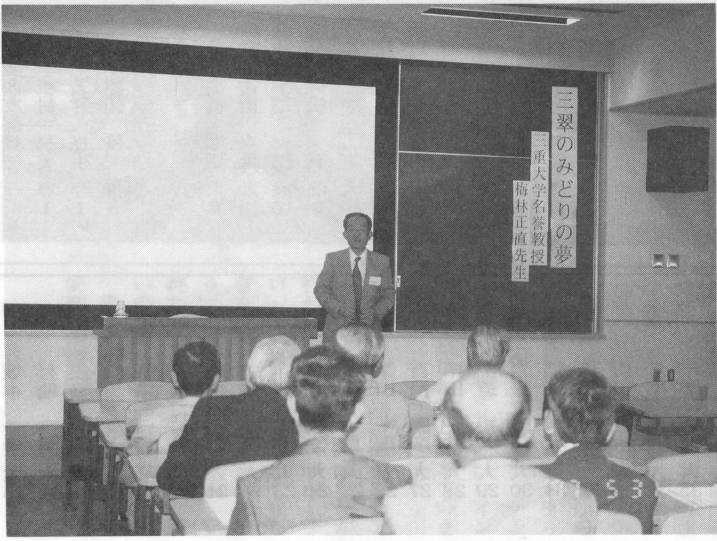
第47号
平成9年12月15日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学コース内
電話/津(059)232-1211
振替/名古屋9-5934
印刷/株式会社あるむ
電(052)332-0861大8長谷川正一

定期総会盛大に開催 梅林先生の講演に聴き入る

三重県支部総会も併催

平成九年度三翠化学会総会が、五月三十一日(土)三重大学物資源学部大講義室において行われた。恩師北岸、赤木、熊澤、梅林各先生ならびに現職教官奥村助教のご臨席を頂いた。

総会は、恒例に従い福田会長が、五月三十一日(土)三重大学物資源学部大講義室において行われた。恩師北岸、赤木、熊澤、梅林各先生ならびに現職教官奥村助教のご臨席を頂いた。報告、基金会計報告、監査報告が担当理事、幹事から提案され、いずれも満場一致で承認された。その後、平成九、十年度役員の変更については、理事案が提出され、満場一致で承認された。福田会長、副会長、各支部長、監事を選出された。会長には福田映氏(大一回)が再選された。引き続き会長挨拶がおこなわれ、その中で再選の理由の一つ



として、三翠同窓会三重県支部連絡協議会の会長職が、現在福田氏によって果たされていることが紹介された。続いて福田会長から評議員ならびに幹事の委嘱が行われた。その後平成九年度事業計画、予算案が担当幹事から提案され承認された。



タイから久松助教(院八)の所に研究に来ておられる「Jing」博士が出席しておられ、梅林先生の旧知の友人であることから、壇上へ上がって頂き、三重大学とのつながりが紹介された。

懇親会は、場所を生協第一食堂に移して田中完爾氏(大二十五)の進行で盛大に行われた。来賓としてご臨席頂いた恩師赤木、熊澤両先生にご挨拶頂いた。熊澤先生からは梅林先生のご講演をうけて、学部長時代のタイでの思い出を時効の話をまじえて楽しくご紹介頂き、赤木先生からは得意の詩吟をご披露頂き、会を盛り上げて頂いた。その後現職教官の奥村助教からご挨拶頂き、里村氏(専一)

三翠化学会総会終了後、引き続き大講義室において三重県支部総会が開催された。池山理事(大十六)から会務報告として、地引き網行事に八十三名の出席を得たこと等が紹介され、

三重県支部総会報告

平成9年度事業計画案

平成9年	5月9日	農芸化学新入生歓迎会(基金)
	5月21日	第1回役員評議員会及び基金運用委員会
	5月31日	平成9年度総会(三重大学)
	7月	第2回役員評議員会及び基金運用委員会
	9月	会報第47号発行
	12月	第3回役員評議員会及び基金運用委員会
平成10年	2月	第4回役員評議員会及び基金運用委員会
	3月	卒業・修了記念品贈呈(基金)
	3月	農芸化学機関誌「こうより」への補助(基金)
	3月	会報第48号発行

平成8年度事業報告

平成8年	5月10日	農芸化学新入生歓迎会(基金)
	5月24日	第1回役員評議員会及び基金運用委員会
	6月1日	平成8年度総会(三重大学)
	10月9日	第2回役員評議員会及び基金運用委員会
	12月1日	会報第45号発行
平成9年	3月6日	第3回役員評議員会及び基金運用委員会
	3月25日	卒業・修了記念品贈呈(基金)
	3月25日	農芸化学機関誌「こうより」への補助(基金)
	3月31日	会報第46号発行

平成9年度予算案

収入の部	前年度実績	予算	備考
前年度繰越金	667,661	698,749	
会費収入	1,053,000	900,000	
雑収入	2,927	5,000	
預金利子	7,167	5,000	
計	¥1,730,755	¥1,608,749	
支出の部	前年度実績	予算	備考
会報印刷費	471,848	450,000	会報47、48号、はがき、封筒
郵送通信費	252,202	300,000	会報発送、会議連絡
会議費	152,260	160,000	役員評議会
人件費	68,000	100,000	会報発送、住所変更のアルバイト
三翠会連絡協議会負担金	20,000	30,000	
事務費	62,084	60,000	ラベル、プリンターの修理
予備費	5,612	508,749	
計	¥1,032,006	¥1,608,749	
差引残高	¥698,749	0	次年度繰越分

平成8年度基金決算報告

収入の部	前年度実績	備考
前年度よりの繰越	1,004,788	
普通預金利息	332	
計	¥1,004,788	
支出の部	前年度実績	備考
新入生歓迎会	30,000	
支部活動費	80,000	
同上送料	1,560	
こうより補助	30,000	
卒業記念品	45,423	
計	¥186,983	
差引残高	¥817,805	
基金管理内容	前年度実績	備考
定額郵便貯金	200,000×4	
	¥800,000	
郵便貯金	¥17,805	

平成8年度決算報告

収入の部	予算	決算	備考
前年度繰越金	667,661	667,661	
会費収入	900,000	1,053,000	
雑収入	5,000	2,927	
預金利子	2,000	7,167	
計	¥1,574,661	¥1,730,755	
支出の部	予算	決算	備考
会報印刷費	400,000	471,848	会報45、46号、はがき、封筒
郵送通信費	300,000	252,202	会報発送、会議連絡
会議費	150,000	152,260	役員評議会
人件費	100,000	68,000	会報発送、住所変更のアルバイト
三翠会連絡協議会負担金	30,000	20,000	
事務費	60,000	62,084	ラベル、経理ソフト
予備費	534,661	5,612	弔電(市川、西川)
計	¥1,574,661	¥1,032,006	
差引残高	0	¥698,749	次年度繰越分

三翠化学会三重県支部役員および
三翠同窓会三重県支部連絡協議会役員

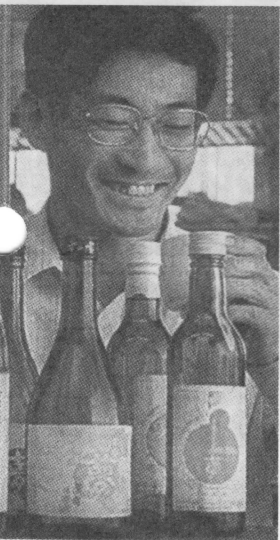
Table with 4 columns: 三翠化学会 役職名, 三翠会支部 役職名, 氏名, 卒業回数. Lists names and graduation years for various roles like 支部長, 理事, 監事, etc.

Table with 4 columns: 役職名, 氏名, 卒業回数, 幹事. Lists names and graduation years for roles like 理事, 副会長, 幹事, etc.

三重夢酵母に託す
日本酒の巻き返し

栗田 修 (大28回)

小生、はやばや三重県職人となつて十年余り、その間ひたすら酵母と戯れ、県内の酒造業界のため努力して参りました。ところが、今日日本酒業界の直面する大きな問題を存じずして、か、ビール・ワイン・ウイスキーなどの酒類に押され、日本の伝統文化の一つである国酒の日本酒は、その消費が年々減少しているのです。その一つの大きな原因として、若い人の清酒離れがあげられます。日本酒の中には幾種類かの有機酸が含まれますが、その主たる物はコハク酸であり、これが日本酒独特の旨味を醸し出します。しかしながら、日本酒を嫌う若い人にとつてはこの旨味が酒臭さを感じられ、本来の日本酒の特徴が欠点となり、嗜好品の難しさをあらためて感じる次第です。みなさんも存じのように、日本酒



も商品の多様化が進み、吟醸酒・純米酒など嗜好性は広がりますが、小生のような酒飲みにとつてはありがたい時代です。でも、酒飲みのための新しい市場開拓では、その消費はほぼ頭打ちで、そこで日本酒業界も新しい消費層層、特に女性をターゲットとした新製品開発に力を注いでいます。その一つとして低アルコール清酒があげられます。小生の所属する三重県工業技術センターには、五名の三翠化学会会員がおり、その内三名が

の単純な疑問からです。乳酸はまろやかな酸味で、味を幅を持たすのに有効な物質です。そこで、日本酒でも乳酸が多くなる味のバランスのとれたものはないかと、試行錯誤繰り返して研究した結果、清酒の旨味成分であるコハク酸を減らし、代わって乳酸とリンゴ酸を多くすること、これまでにない新しいタイプの低アルコール清酒の開発に成功しました。



田中 轟 (たなか あきよし)



一九七四年四月より、三重大学の改組に伴って教育学部から生物資源学部に移籍し、農芸化学コースにお世話になることになりました。小畑先生、妹尾先生の研究グループに入れていただいた

農芸化学科一年生の一般化学・一般化学実験を担当し、また農芸化学の先生方にもいろいろご指導をいただきましたので、良くも悪くも、「勤務先」が変わった、という実感が今一つ希薄です。

担任の熊澤先生は、現在定年退職され、水泳にスキーにと教授時代そのままの充実した日々を送っておられます。熊澤先生の「有機化学I」(皆様覚えて

の十年は子育てに追われて、大学で学んだことは全然関係のない日々を過ごしていました。が、子供達の成長と共に社会との関わりも少しずつ増え、大学

身につけた知識が「50」で研究していた時とはまた違う形で活きています。十年振りの同窓会で訪れた津の街で、自分の中の「三翠化学」を見つめなおしました。

なお、かねてより闘病中でした寺田成人君が、この同窓会の約一カ月後、闘病のかいなく他界致しました。寺田君の御家族に代わりまして、この場をお借りして、生前の故人へのご厚情に感謝し、謹んで御報告させていただきます。

新任の「あきよし」
課程修士課程を修了し、八八年に同博士課程を中途退学して東京大学農学部助手として九六年三月まで勤務いたしました。この間、土壌中における難分解性物質の微生物分解、土壌に放出された微生物の挙動と制御に関する研究を主に手がけました。九四年から九六年にかけてはアメリカ合衆国テネシー大学にてダイズ根粒の形成機構に関する研究に従事いたしました。

一九九九年十一月二十六日生まれ、一九八六年に東京大学大学院農学系研究科農芸化学専門

産の向上のために努力していくつもりです。また、土壌学教育研究を通じて、二十世紀を担う人材の育成にも一杯努力したいと考えております。

卒業以来十四年振り、前回のクラス会からはなんと十一年振りに三回目のクラス会を開きました。急な出張が入った人、軽井沢の別荘で避暑中の人、コペンハーゲンへの学会出席中の

いらつしやいますか？平均点以下だと再試験だったあの厳しい講義の話や生物資源学部誕生時の苦労話、みんなの仕事への質問やアドバイスを、教授時代のそのまゝのエネルギーあふれる熊澤先生の話がはずみます。

存知の方もあるかもしれませんが、三十回のお山真豊君が板前をしながらお立ち寄り下さい。

なお、かねてより闘病中でした寺田成人君が、この同窓会の約一カ月後、闘病のかいなく他界致しました。寺田君の御家族に代わりまして、この場をお借りして、生前の故人へのご厚情に感謝し、謹んで御報告させていただきます。



坂本 一泰 大15
杉崎 護 大16
佐藤 寿郎 大17
内藤 茂三 大18
白井 宣一郎 大19
廣瀬 和久 大20
田中 忠 大21
古川 公男 大22
寺沢 陽子 大23
古山 順啓 大24
伊藤 真 大25
深田 理 大26
百済 勝彦 大27
栗田 修 大28
中道 裕久 大29
岩崎 誠二 大30
稲垣 卓次 大31
伊藤 誠二 大32
粉川 英治 大33
青山 茂樹 大34
出岡 裕哉 大35
若山 秀人 大36
小林 大輔 大37
藤田 修造 大38
山田 義浩 大39
武村 政春 大40
林 秀謙 大41
杉浦 和彦 大42
坂本 晶子 大43
加藤 俊次 大44
千々 岩崇 大45
駒田 洋院 大46

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

八月九日、津新町駅前「天ぶらのさかもと」に集合。十年の歳月はさすがに大きく、白髪はチラホラ、お腹も丸く……。皆さん立派な「おじ様」です。

同窓会の方にはサービス致します。ここでは熊澤先生を交えて良く飲みおいしいお寿司を食べ、皆で笑いじつくりと喋りました。

三翠化学の同窓会は、お盆に開催します。予定を明けておいて下さいね。

高橋 渡辺 和子 記

大30 クラス会

大30 クラス会

大30 クラス会

大30 クラス会

大30 クラス会

大30 クラス会

大30 クラス会



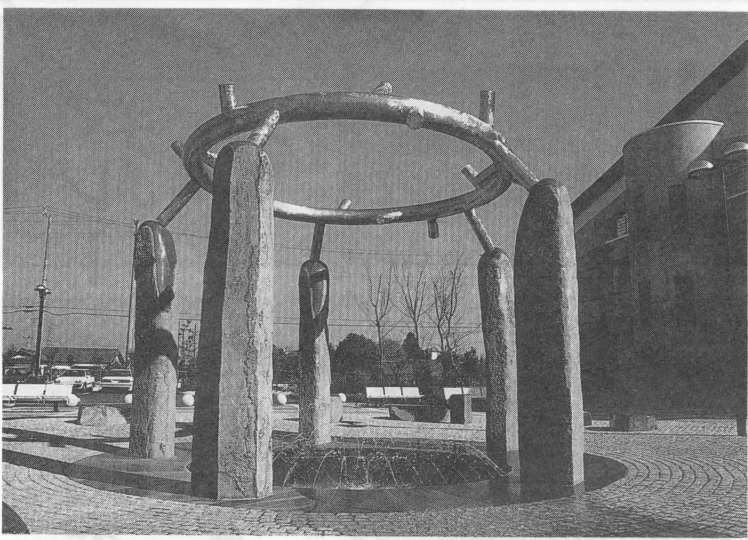
ワインに夢を託して

前田 巖 (専2・大1回)

田口先生から順番だといわれ
て考えてみれば、仲間だった嶋
林、嶋田、藪本の三先生もす
に職を退かれ、高橋先生も来
三月に定年ご退官と聞いて年貢
の納め時と親念した次第です。
卒業の時、学者や先生になる
気はなかつたのに思いがけなく
長瀬先生の研究室に残ることに
なり、それが現在まで四十四年
あまり続いています。昭和四十
和四十年に阪大産研二國研究室
に内地研究員として出していた
だき、原田先生のところで作
たデータが武田薬品のカードラ
ンの広告に出ているのを見ると
昔懐かしと思われず。

二國先生が阪大を退官されて
新設の短大の学長になられたと
きにお誘いを受け、昭和四十五
年に今の短大に移りました。当
時はスポンサーの景気が良かった
ので三重大と同じくらしい設
備をして貰い、研究費も当時の
短大としてはかなりのものだった
と思います。そして東大生物
学教室で一年あまり、長瀬先生
と同じ二〇二号室で研究に専念
することが出来ました。阪大、
東大では良き先生、各年代の友
人を得て充実した時期でもあり
ました。

昭和五十四年にスポンサーが
倒産したため独立経営を余儀な
くされ、学生を集めるのに東奔
西走、四苦八苦しました。その
さい、三翠出身の先生方に大変
お世話になったことを感謝して
おります。落とすような試験を
しないで入ってくる学生を、就
職するときは他の学校の卒業
生に負けないようにしなければ
なりませんから大変なことで
す。創設の時に再試の制度を作
っておきましたので教授会で再
試を決めますが、手続きの関係



で再試成績提出まで期末試験後
二ヶ月あります。この間にレポ
ート、面接、テストを繰り返
します。追い込まれるとだんだん
やるようになってきます(とこ
とんまで追いつめてはいけませ
ん)。したがって、十一月
及び四月、五月は大変忙しい月
になります。恨みに思う人があ
るかもしれませんが、学校をたず
ねてくる卒業生の多いことを嬉
しく思っております。教育とは
根気のある仕事であり、ひとり
ひとりの成長をみるのは張り合
いのあることです。
数年前から社会人にも公開の
授業で国際ワイン論という楽し
い講義を持っています。授業の
はじめにコルク栓を抜いて出て
くる香りがアロマ、酸素にふれ
てブーケに変わり、授業の終わ
りには味も微妙に変わってくる
のを自分で判断していただく。
社会人には好評のようです(学
生には色と香りだけで味は二年
の専門料理で)。ワインの勉強
は地理と歴史から始まります。
大昔に習ったフランス語をプ
ラッシュアップしてフランスから
はじめました。あと二年あまり
で定年になります。スウィー
スを自分で動かせる間はワイン
の旅を続けたいと思っていま
す。

八年ほど前に関根伸夫氏のア
ートワークでキャンパス整備が
行われました。その一つがトラ
ロククの泉に始まる石のせせら
ぎを通って、写真の「空の首飾
り」(六方石とステンレス)で
終わりますが、ちょっとした憩
いの空間になっています。
来年度から、男女共学にして
愛知江南短期大学になります。

アメリカ留学体験記

生理活性化学教育研究分野助手 稲垣 穰



平成八年六月から九年九
月まで、一年四ヶ月の間アメリ
カペンシルバニア州にあるリ
ーハイ大学へ留学してきました。
農芸化学の諸先生方には私の不
在中をバックアップして頂きま
した。特に在籍する研究分野の
柏村教授、西川助教には特に
お世話になりました。この場を
お借りしてお礼申し上げます。
ペンシルバニアはアメリカ独
立十三州に含まれ、独立宣言が
採択された町であるフィラデル
フィアや製鉄の町ピッツバーグ
を擁しています。歴史があり、
沢山の人が住んでいます。な
ることが出来ました。特にアバ
トの裏の森には沢山のリスがい
て、可愛らしい姿が心を和ませ
てくれました。
リーハイ大学はペンシルバニ
ア州の東部のベツレヘムの町に
在ります。ドイツ系のオランダ
人がアメリカに初期に入植した
町で、クリスマスシティと呼ば
れ、町ぐるみでクリスマスを
祝う町として有名です。ベツレ
ヘムからほんの十分も東へ走
ると隣の州のニュージャージーで
す。そこからさらに約七十マイ
ルでニューヨークシティに至
ります。
リーハイ大学はアイビリー
グの有名校群のすぐ次ぐくらいに
ランキンされる名門私立大学
で、創立は一八六五年と全米の
大学の中でも最も古い部類に入
ります。キャンパスの建物は古
い物も多く、中世のお城を思わ

せかゆつたりした、落ちつける
雰囲気のある所が多いと思いま
した。独立戦争以前の時代に当時
の有力者であるウィリアム・ベ
ンが、イギリス王からペンシル
バニアの土地を譲り受けまし
た。ベンが友愛を理想に掲げて
国作りを始めたことから現在の
ペンシルバニア州の源流が始ま
りました。ペンシルバニアとは
「緑の土地」と言う意味
だそう。その名の通り、
幾つもの山が連なり、うねった
緑の大地が延々と続いていまし
た。野生動物が多く、夜になる
とあちこちで鹿や兎などを見る

化学会の総会に合わせて

専2 クラス会

今年の仙人会(専二クラス会)
は、新築完成した三重大学生物
資源学部棟を見ることが意義が
あった。そのため、三翠化学会
総会に合わせて五月三〇日に仙
人会を開くことになり、三重県
久居市神原温泉の神原館で開
催し、次の二〇名の参加があった。
市橋、大井、大道、岡本、沖
津、岸本、黒部、榊原、佐々木、
十川、竹内、中北、長野、藤井、
藤山、吉田、藤枝、松村、中西、
中川(潔)

仙入会を開くに先立ち、佐々
木敏雄君から「最近の健康状況
報告」があり、闘病生活を温か
く励ましてくれるクラスメイト
たちの変わらぬ友情に対して、
お礼の挨拶があった。
竹内会長の挨拶のあと懇親会
に入り、時のたつのを忘れて杯
を交わした。懇親会のあと二次
会に行く者、幹事の部屋でだべ
る者など、十二時過ぎまで旧交
を温めた。
来年は、石川県の沖津君のご
好意で、山中温泉で開く予定で
したが、沖津茂次君の急逝(一
月二十六日)により、伊勢志摩
地方で開催することになった。

南知多にてなごやかに

大4 クラス会

昭和三十一年卒業の我われク
ラスの十三人が十月二十五日土
曜日の午後、南知多に集まり、
クラス会を開いた。集まったメ
ンバーは、ブラジル在住の松尾
君を始め、兵庫の黒田、横浜の
古川、大阪の細見と村上に加え
て、勝田・斎藤・渋谷・田井
中・花山・原田・林・藪本の
各君である。
大4クラス会が恒例にしてい
た夫婦同伴、一泊の会を今回は
日程の都合で、日帰り、活魚料
理賞味の宴とした。
会は、旧交を暖めながら、松

尾プロボリスの試飲とその薬理
効果で話に花を咲かせた。
このプロボリスは、南米産蜂
が己の巣に抗菌壁を造るために
周辺の植物から集めた、フラボ
ノイド様物質を主成分とする粘
質固形物で、そのアルコール抽
出物である。
夕間も迫り、送迎バスで名古屋
屋に向かいつつ、次回クラス会
を国内で、次回はブラジルで
開催することを決めて、この会
を閉じた。
(幹事・古川 世話・勝田)



97年5月30日・三重県神原温泉

そして二階大講義室での「三
翠化学会総会」に出席した。
この総会には専1、専2、大
1の出席者が群を抜いて多く、
仙人会の存在を示すとともに、
彦

マレーシア同窓旅行

自然と人との共存社会に向けて

我々十二回生有志(岩佐・鋤柄・近藤・松島・今西)は、平成九年八月二十日より、マレーシアのクアラルンプールのJIRCAS (Japan International Research Center for Agricultural Sciences) に赴任中の同期生小坂君を訪ねる同窓旅行に出発した。丁度タイ北部の山岳地帯で梅の栽培普及にご尽力されている恩師梅先生も現地より合流され、また先生の奥様も我々と一緒にマレーシアに向わ

れた。
梅先生のタイのご活躍は、九月四日から四回にわたり朝日新聞に「梅が道を開く」で連載されたので、読者諸君はご存知の事と思います。
途中立ち寄った香港が台風の影響で、シンガポールに着くのに十二時間も要し、悪戦苦闘したが、シンガポールに一泊後無事クアラルンプールに到着。小坂ご夫妻の歓迎を受けた。
第一夜は、日本では昔懐かし

い夜見世(百軒余の屋台街)の大変な人混み中を抜けて、ヨシズで囲った井から扇風機で涼をとる庶民的なマレー料理店で、よく冷えた美味しい「ANCHOR BEER」を飲みながら、暫し飲

望みたいものである。
Salang Pekarの錫製品工場と巨大な鍾乳洞(ハツ洞窟)にあるヒンズー寺院を見学した。東南アジアの各地よりインド系の善男善女が裸足で二七二段の石段を登り、この聖地にお参りに来る。洞窟内や人物や鳥獣(象・蛇・クジャク)等様々な神像は、自然崇拜とヒンズーの神話から取った教訓的なもので、リアルで官能的で、正に仏教をも包含した源泉を見る思いがある。しかし神像は質素なもので、日本の神道を感じさせた。

井上教授は番組の最後に、昆虫や鳥類がどこともなく来て受粉と種子の伝播をおこし、同時に昆虫や鳥類も繁殖する。これは実に見事な共生関係が成り立っていた。
井上教授は番組の最後に、「熱帯雨林の植物と動物の共生は実に多様性があり、これを認めた競争のない世界である。全てが集団の中で棲み分けて生活し繁殖し進化してきた。これは二十一世紀を人がどう生きるかのヒントになる」と結ばれた。

今旅の糧として、それぞれ多様な立場で、次世代に向けてやるべき事に健康を取り組むことを互いに胸に誓った。
最後に、松島君、マレーシアでユニークで様々な演出を願った小坂ご夫妻に厚く感謝いたしまし



二年に一度開催しているクラス会を、秋も深まる古都奈良にて平成九年十月十四、十五日の一泊二日にて開催しました。年齢六十六、六十七ともなると、まだ現役のもの、趣味の世界に暮らすもの、など渾然としている現状ですが、あえて今回初めてウイークデイの開催に踏み切りました。総勢二十五名中十九名の出席を見、皆の近況報告を聞き感心したり、羨ましく思ったり、また毎度の事ながら、日

奈良・三笠温泉に集った 穏やかな仲間たち

専3 クラス会

本現状を憂い、将来を悲観し、夜の更けるのも忘れて語り明す事ができたのは、幹事として有り難く感謝感激です。
ただ残念なことは、この二年の間二人の友を無くしたこと。その一人は、学校始まって以来初めて紅一点、市川陽子さんであり、いま一人は、硬派の勇、高野隆男君です。陽子さんはクラスで一番長生きをするであろうと皆の意見の一致により、クラス会の会計をお願いし

ていたのに、また、高野君はいつも夜も深まり議論が熱中する頃は、保守の筆頭としての論客ぶりを発揮していたのに!
翌日は天候にも恵まれ、奈良の都を散策し、普通の人なら一時間半くらいで歩くところを三時間掛けて歩き、市内の高級ホテルにて昼食を摂り、次回の主任幹事を選出し、全員元気で再会を約して散会しました。
感謝感謝(尾之内 記)



市川 嶋田 大窪 宮本 奥田 新開 中村 鈴木幸重 洲崎 草深 尾之内 田畑 原田 山本 田中 川村 丸山 田村 林

露天風呂で鋭気を!!

大5 クラス会

市、江上光男(愛知県弥富町、岡田朝彦(堺市、加藤 晃(千葉市)、小磯元男(岡山熊山町、佐野 敦(千葉県山手市、榊原久寿男(豊橋市、滝川重喜(長野豊丘村、野瀬 夫(岡崎市、森田明正(名古屋市、山口清

古屋市) 慈(東京板橋、山田幸雄(名古屋市) 中央アルプスを背に、南アルプスを眺める露天風呂に松笠をかぶりゆつくりとつかり、青春の鋭気を回復してから宴会を行いました。卒業後の苦労話、第

二の人生の活動を語り多に盛り上げました。
翌日(五日)は、農園ハーバルたきがわ、テーマパーク伊那谷道中及び天竜峡等を思い思いに訪ね、伊那谷の秋を満喫して家路に帰りました。卒業時は二

十七名で、物故者は川部弥代治(滋賀県出身)、松本(堀内)洋三(高知県出身)両君です。心からご冥福を祈ります。
次回は二年後に愛知県三河地区に開く予定です。
(滝川重喜 記)



Japan International Research Center for Agricultural Sciences MALAYSIA OFFICE

いマスゲームの練習中であつた。二十一世紀を担うこれら若者が、人種・宗教を越えて、急がず、背伸びせず、国を着実に発展させていくような教育を望みたいものである。
Salang Pekarの錫製品工場と巨大な鍾乳洞(ハツ洞窟)にあるヒンズー寺院を見学した。東南アジアの各地よりインド系の善男善女が裸足で二七二段の石段を登り、この聖地にお参りに来る。洞窟内や人物や鳥獣(象・蛇・クジャク)等様々な神像は、自然崇拜とヒンズーの神話から取った教訓的なもので、リアルで官能的で、正に仏教をも包含した源泉を見る思いがある。しかし神像は質素なもので、日本の神道を感じさせた。

井上教授は番組の最後に、昆虫や鳥類がどこともなく来て受粉と種子の伝播をおこし、同時に昆虫や鳥類も繁殖する。これは実に見事な共生関係が成り立っていた。
井上教授は番組の最後に、「熱帯雨林の植物と動物の共生は実に多様性があり、これを認めた競争のない世界である。全てが集団の中で棲み分けて生活し繁殖し進化してきた。これは二十一世紀を人がどう生きるかのヒントになる」と結ばれた。

今年旅行の糧として、それぞれ多様な立場で、次世代に向けてやるべき事に健康を取り組むことを互いに胸に誓った。
最後に、松島君、マレーシアでユニークで様々な演出を願った小坂ご夫妻に厚く感謝いたしまし



本年は卒業後四十年の節目の年になります。早いものでもうそんなことになるかなと言う感じがします。
来る十月四日、五日、長野県伊那谷の松川町「清流」でクラス会を開催します。何人かは学生時代に登山、スキーで訪れた土地でもある。出席者は左記の十三名でした。

来賓 兎(尾崎市、植松克

昆虫や鳥類がどこともなく来て受粉と種子の伝播をおこし、同時に昆虫や鳥類も繁殖する。これは実に見事な共生関係が成り立っていた。
井上教授は番組の最後に、「熱帯雨林の植物と動物の共生は実に多様性があり、これを認めた競争のない世界である。全てが集団の中で棲み分けて生活し繁殖し進化してきた。これは二十一世紀を人がどう生きるかのヒントになる」と結ばれた。

今年旅行の糧として、それぞれ多様な立場で、次世代に向けてやるべき事に健康を取り組むことを互いに胸に誓った。
最後に、松島君、マレーシアでユニークで様々な演出を願った小坂ご夫妻に厚く感謝いたしまし